

名寄高新聞

新人戦特集

北海道名寄高等学校新聞局

2021.1.18

発行責任者 小原圭乃

支部新人バドミントン：名寄スポセン

男子ダブルス 高橋・鈴木ペアが優勝

男子団体 決勝で稚内に惜敗

11月20日から22日まで、名寄市スポーツセンターで令和2年度高体連名寄支部新人バドミントン大会・兼第53回北海道高等学校新人バドミントン大会名寄支部予選が開催された。

男子の部には、名寄高校、稚内高校、浜頓別高校、稚内大谷高校、士別翔雲高校、礼文高校、利尻高校、おといねっぷ美術工芸高校の8校が出場し熱戦を展開した。

大会は団体戦から行われ、名高は1回戦をシードされ、初戦の準決勝で稚内大谷と対戦。第1ダブルスの高橋旺雅君(20)・鈴木大斗君(20)ペアは持ち前の攻撃力を発揮して相手を圧倒し、21-17、21-19のゲームカウント2-0で快勝し



コースを狙ってシャトルを散らす鈴木大斗君

た。第2ダブルスの遠藤豪希君(10)・三浦春希君(10)ペアは粘り強くシャトルをつなぎ善戦したが、17-21、18-21のゲームカウント0-2で惜しくも敗れた。続く第1シングルスの松村卓也君(2B)は丁寧にシャト

男子
シングルス

高橋君が準優勝



相手位置を確認しジャンピングスマッシュを打つ高橋旺雅君

ルを散らし、チャンスには強打を打って主導権を握り、23-21、21-18のゲームカウント2-0で勝利した。第2シングルスには鈴木君が登場。第1ゲームは激闘となったが、デュースの末20-22で奪われる。すると第2ゲームは相手にリズムをつかまれ9-21で落とし、ゲームカウント0-2で敗れた。最終の第3シングルスには高橋君が出場。高橋君は立ち上がりに調子が上がりず、第1ゲームを17-21で落とす。しかし、第2ゲームで気合を入れ直した高橋君はいきなり3連続得点し、流れをつかむ。その後も積極的に攻め続け17-10とリードすると、そこから怒涛の4連続得点し、21-10でこのゲームを奪う。完全に主導権を握った高橋君は第3ゲームも21

第2シングルスの鈴木君は第1ゲームを12-21で落とすと、第2ゲームで奮起し白熱



力強くシャトルを打つ越史也君（前は川原優斗君）

-13で相手を圧倒。ゲームカウント2-1で勝利し、名高を決勝に導いた。

決勝は宿敵稚内との対戦。第1ダブルスの高橋・鈴木ペアは攻撃的なプレーで熱戦を繰り広げたが、0-2で敗れる。第2ダブルスの遠藤・三浦ペアは連携の良い動きで第1ゲームを21-14で奪う。第2ゲームは接戦となるが19-21で失う。最終の第3ゲームでは無類の粘りをみせて健闘し、21-7で取り、ゲームカウント2-1で勝利した。続く第1シングルスの松村君は相手のコースを狙う巧みなショットに苦戦し0-2で敗れる。



狙い澄ましてサーブを放つ川原優斗君

の戦いを展開。しかし、19-21とあと1歩及ばずゲームカウント0-2で敗北。その結果、1勝3敗で稚内に敗れ準優勝となった。

団体戦後、個人ダブルス戦が行われ、名高からは高橋・鈴木ペア、川原優斗君(2C)・越史也君(1A)ペア、遠藤・三浦ペアが出場。3ペアとも1回戦をシードされ、2回戦から登場した。2回戦は3ペアとも安定したプレーで相手を圧倒し、全て0-2で勝利。準々決勝に進んだ。

準々決勝では、高橋・鈴木ペアと川原・越ペアが実力を発揮し、それぞれ礼文ペアと美深ペアを2-0で退け準決勝に進出。遠藤・三浦ペアは稚内の佐賀・森ペアと対戦したが、相手の緩急をつけた多彩なプレーに及ばず、0-2で敗れた。

準決勝では高橋・鈴木ペアと川原・越ペアが名高対決。ショットの精度と攻撃力で勝る高橋・鈴木ペアが主導権を握り、2-0で川

原・越ペアを退けた。

敗れた川原・越ペアは3位決戦で名寄産業ペアと対戦。試合は点を取り合う接戦となるが、1-2で惜しくも敗れ4位となった。

決勝戦に進んだ高橋・鈴木ペアは稚内の佐賀・森ペアと対戦。集中を切らさず攻めの姿勢で優位に立ち、2-0で勝利し、堂々の優勝を飾った。

続く、個人シングル戦には、高橋君、鈴木君、遠藤君の3名が出場した。

高橋君は1回戦をシードされ、2回戦で浜頓別選手と対戦。力強いプレーで終始リードを保ち、2-0で快勝。続く3回戦も遠別農業選手を圧倒して2-0で勝利し、準々決勝に進んだ。鈴木君も1回戦をシードされて、2回戦で土別翔雲選手と対戦。コートを広く使ったショットで相手のミスを誘い、2-0で勝利。3回戦も浜頓別選手を一蹴して2-0で勝ち、準々決勝に駒を進めた。遠藤君も



強いドライブを打つ三浦春希君(前は遠藤豪希君)



軽いフットワークでシャトルを返す遠藤豪希君

1回戦をシードされ、2回戦は不戦勝で勝利。3回戦では美深選手と対戦し、接戦となつたが落ち着いたプレーで流れを引き寄せ、2-1で勝ち準々決勝へ進んだ。

準々決勝で高橋君は稚内大谷の大越君と対戦。1ゲームを奪われはしたが、攻撃的なプレーでリズムをつかみ、2-1で勝利した。準々決勝で、鈴木君は稚内大谷の古草君と、遠藤君は稚内の佐賀君と対戦したが、ともに相手の強く巧みなショットの前に実力を発揮できず、0-2で敗れベスト8で終了した。

準決勝で高橋君は稚内大谷の古草君と対戦。シャトルを散らしてチャンスには強打を決め優位に立ち、2-0で快勝し決勝に進んだ。

高橋君は決勝で稚内の佐賀君と対戦し、互いに精度の高いプレーで手に汗握る熱戦を開戦したが一歩及ばず、0-2で敗れ準優勝となった。

チーム全体で向上していく 山本祐真 主将

今大会は、以前の大会で勝てなかったチームに勝利することなど、個人それぞれが目標を立てて、それを達成させることを意識して練習を行ってきた。本番では互いに応援し、士気を高め合う場面があり良かった。その影響で全体的に後悔しないプレーをすることができたと思う。しかし、相手

も強く、団体戦などで優勝を逃した。

今後は、1月中旬に新人戦全道大会を控えているので、全道大会団体ベスト8を目標にどこが弱点かを確認し、そこを強化することに力を入れていく。また、全道大会に向けてチーム内で声を掛け合って、チーム全体として向上していきたい。

全道団体戦で確実に1勝 濱中聰志 監督

今大会は、全道で1勝するために、名寄支部では団体戦で優勝することが目標だった。しかし、団体戦とシングルスでは惜しくも稚内高校に負けてしまい、2位での全道出場となった。一方で、ダブルスでは優勝を達成することができた。

現在は、全道大会に向けて、団体戦でも

勝てるようチーム全体として補強すべき点を考え、フィジカル強化や技術面の練習に加え、縄跳びなどを用いて全道で戦い切るための体力強化に力を入れている。また、メンタル強化も普段から気を配っている。

全道大会では団体戦で確実に1勝して、ベスト8を目標に日々練習している。